



福岡市育成会だより

特別号

発行所 社会福祉法人 福岡市手をつなぐ育成会

〒810-0062 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ4階

TEL.092-713-1480

この会報は、共同募金の配分を受けて作成したものです。



ありがとうございました

神奈川県相模原市「津久井やまゆり園」における事件について

社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会 理事長 向井公太

まず、事件でおなくなりになりました利用者19名の方並びにご家族の皆様からのお悔やみを申し上げます。また、負傷をされました皆様からのお見舞いを申し上げますとともに、一日も早いご快復をお祈りいたします。

今回の事件を聞きましたときには、有り得ないことと耳を疑い、さらに容疑者が元施設職員であったことが大きな衝撃でした。何が、彼をこのような凶行に走らせたのか。今後動機の解明などなされることでしょうか。障がいのある人であってもそうでない人も人の命重さについて、今一度各人がそれぞれの立場で考える機会とすべきであると思います。

その点、今回、全国手をつなぐ育成会連合会から出された2通の声明は大変重要なものであります。障がい者団体としての考えの表明、そして障がいのある方へのメッセージ。

そして、今後、障がい者福祉に関わる我々は今回の事件から何を学び、どのような対応を取らなければならないのか。例えば、防災に意識が行きがちであったことも反省点です。

今後は、防災とともに、防犯の視点もより重要になるのではないかと思っております。ただ、防犯の視点といっても、地域に開きかけた扉を閉ざすことはあってはならないと思います。障がい者も地域で生

活し、地域の皆さんの理解・協力を得て、初めて生活が可能になりますし、障がいのある人はもちろん施設も含め、殻に閉じこもっては生きていけない時代であると思います。

そういう意味で、今回のような事件があったからこそ、我々も、なお一層、社会に対して、障がいや障がいのある人に対する理解を促進する取組が必要であると思えます。

育成会の会員の皆様も、今回の事件で動揺されたり、不安になられたりすることがあることと思いますが、これまでと同様に日々の生活をお送りいただきたいと思います。

我々も、会員の皆様や市民の皆様に対してこれまでと変わらず取組を進め、障がいや障がい者に対する理解が進み、障害のある人もない人も共に生きる共生社会の実現に向けての取組を進めたいと思っております。

自分自身に、そして社会に向けて、

わたしたちひとり一人が

宣言しませんか

「わたしは、一人ひとりの命を尊重します。堂々と生きていきます。」

育成会保護者会も宣言します。

「育成会保護者会も全力でみなさんのことを守ります。」

会長 下山 いわ子

被害に遭われた方々に心よりご冥福を

お祈りするとともに、ご家族のみなさまにお悔やみ申し上げます。また、負傷された方々の一日も早いご回復をお祈り申し上げます。

そして、やまゆり園の利用者とそのご家族、職員、関係者のみなさまが一日も早く穏やかな日常に戻れますようお願い申し上げます。

憤りと悔しさと悲しみが癒えることはありません。当事者のみなさまのことを思うと言葉を失います。

私は、全国手をつなぐ育成会の声明文と障がいのある方へのメッセージを何度も読みました。私たちに何ができるでしょうか。

私たち一人一人が宣言しませんか。自分自身に、そして社会に向けて。

「わたしは、一人ひとりの命を尊重します。堂々と生きていきます。」

そして、育成会保護者会も宣言します。「育成会保護者会も全力でみなさんのことを守ります。」

ひとりでは弱い力も、多くの人が手をつなげば大きな力となります。

これからも育成会は在り続けます。安心してください。

不安な気持ちを抱えている人は話してください。

一人で悩まないで！

仲間がいますよ。

福岡市手をつなぐ
育成会保護者会
電話 092-713-1480
E-mail:hogsha2@fiku.jp

神奈川県立津久井やまゆり園での事件について（声明文）

平成28年7月26日未明、障害者支援施設「神奈川県立津久井やまゆり園」（相模原市緑区、指定管理者・社会福祉法人かながわ共同会）において、施設入所支援を利用する知的障害のある方々が襲われ、19人が命を奪われ、20人が負傷するという未曾有の事件が発生しました。被害に遭われ亡くなられた方々に、衷心よりご冥福をお祈りするとともに、ご家族の皆様にはお悔やみ申し上げます。また、怪我をされ治療に当たられている方々の一日も早い回復をお祈り申し上げます。

抵抗できない障害のある人に次々と襲いかかり死傷させる残忍な行為に私たちは驚愕し、被害にあわれた方々やそのご家族の無念を思い、悲しみと悔しさにただただ心を震わせるばかりです。職員体制の薄い時間帯を突き、抵抗できない知的障害のある人を狙った計画的かつ凶悪残忍な犯行であり、到底許すことはできません。事件は、当会会員・関係者のみならず、多くの障害のある方やご家族、福祉関係者を不安に陥れ、深く大きな傷を負わせました。このような事件が二度と起きないように、事件の背景を徹底的に究明することが必要です。

今後、事件対応に関わる皆様には、まずは被害者及び被害者の遺族・家族、同施設に入所されている方々のケアを十分に行ってくださいようお願いいたします。その上で、事件の背景・原因・内容を徹底して調査し、早期に対応することと中長期に対応することを分けて迅速に行いつつ、深く議論をして今後の教訓にしてください。加えて、本事件を風化させないように今後の対応や議論の経過を情報として開示してください。また、事件で傷ついた被害者やご遺族が少しでも穏やかに過ごせるよう、特に報道関係機関には特段の配慮をお願いします。

事件の容疑者は、障害のある人の命や尊厳を否定するような供述をしていると伝えられています。しかし、私たちの子どもは、どのような障害があっても一人ひとりの命を大切に、懸命に生きています。そして私たち家族は、その一つひとつの歩みを支え、見守っています。事件で無残にも奪われた一つひとつの命は、そうしたかけがえない存在でした。犯行に及んだ者は、自らの行為に正面から向きあい、犯した罪の重大さを認識しなければなりません。

また、国民の皆様には、今回の事件を機に、障害のある人一人ひとりの命の重さに思いを馳せてほしいのです。そして、障害の有る無しで特別視されることなく、お互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会づくりに向けて共に歩んでいただきますよう心よりお願い申し上げます。

平成28年7月26日

全国手をつなぐ育成会連合会
会長 久保厚子

つくい えん じけん
津久井やまゆり園の事件について

しょうがい
(障害のあるみなさんへ)

がつ にち かながわけん つくい えん しせつ しょうがい ひと
7月26日に、神奈川県にある「津久井やまゆり園」という施設で、障害のある人たち
にん ころ じけん お
19人が殺される事件が起きました。

ようぎしゃ たいほ しせつ はたら だんせい な かたがた めいふく
容疑者として逮捕されたのは、施設で働いていた男性でした。亡くなった方々のご冥福
いの かぞく く もう あ かたがた
をお祈りするとともに、そのご家族にはお悔やみ申し上げます。また、けがをされた方々
いちにち はや かいふく ねが
が一日でも早く回復されることを願っています。

ようぎしゃ じぶん たす よ ひと つぎつぎ きず いのち
容疑者は、自分で助けを呼べない人たちを次々におそい、傷つけ、命をうばいました。
ざんこく けつ ゆる な ひと おも かな
とても残酷で、決して許せません。亡くなった人たちのことを思うと、とても悲しく、
くや おも
悔しい思いです。

ようぎしゃ しょうがいしゃ はな なか
容疑者は「障害者はいなくなればいい」と話していたそうです。みなさんの中には、そ
ふあん かん ひと おも みぢか ひと ふあん き
のことで不安を感じる人もたくさんいると思います。そんなときは、身近な人に不安な気
もち はな かぞく ともだち しごと なかま しえんしゃ はなし き
持ちを話しましょう。みなさんの家族や友達、仕事の仲間、支援者は、きっと話を聞いて
くれます。そして、いつもと同じように毎日を過ごしましょう。不安だからといって、生
かつ か ひつよう しょうがい ひと ひと わたし ひとり
活のしかたを変える必要はありません。障害のある人もない人も、私たちは一人ひとりが
たいせつ ほんざい しょうがい だれ きず
大切な存在です。障害があるからといって 誰かに傷つけられたりすることは、あってはな
りません。

だれ しょうがいしゃ い わたし かぞく ぜんりょく
もし誰かが「障害者はいなくなればいい」なんて言っても、私たち家族は 全力でみなさ
まも
んのことを守ります。

あんしん どうどう い
ですから、安心して、堂々と生きてください。

へいせい ねん がつ にち
平成28年7月27日

ぜんこくて いくせいかいれんごうかい
全国手をつなぐ育成会連合会
かいちょう く ぼ あつこ
会長 久保厚子

事件発生から声明文発表まで 全国手をつなぐ育成会連合会の動きを中心に

全国手をつなぐ育成会連合会

政策センター委員・情報誌「手をつなぐ」編集委員 又村 あおい

今回の事件は発生が深夜(早朝)だったため、朝になってニュースなどで大変な事件が起きてしまった…と全身の力が抜けるようでした。以下、又村の目線で事件発生から全国手をつなぐ育成会連合会(以下、全育連)による声明文の発表までを振り返りたいと思います。

1 事件発生から声明文発表まで

全育連では、障害者虐待事案など知的・発達障がいのある人の人権が脅かされるようなことが起きるたび、声明を発表しています。しかし、今回の事件は(虐待や差別がマシなどと言いつもりはまったくありませんが)事象として「戦後最悪の刃物による殺人事件」だったことから、亡くなった方への追悼やケガをした方へのお見舞いは当然のこととして、それ以上どのようなアクションを起こせば良いのか、少なくとも又村には分かりませんでした。

しかし、その後の報道で被疑者の明らかに歪んだ思想などが明らかになったことも踏まえて、全育連の権利擁護委員会をサポートしてくださる弁護士の方がお力添えくださり、時間を置くことなく声明文を公表す

ることとしました。(声明文は2ページのとおりに)

2 障がいのある本人からのうったえ

全育連が声明文を公開したタイミングと前後して、日ごろからメールやメッセージをやり取りしている知的・発達障がいのある本人から、又村に連絡がありました。もちろん、それはお互いのことを知りません。にも関わらず、まるで示し合わせたかのように、同じタイミング、かつ同じような内容のうったえでした。特に印象深い内容をご紹介します。(原文を趣旨が変わらない程度に改変しています)

- ・相模原の施設での事件、ビックリしました。私、かなり今朝はつらいです
- ・その施設の夜勤職員さんの情報ありません。その職員はどうしたのですか？
- ・元職員がこんな事件を起こすなんて、とても怖いです

- ・一番悲しいのは、障害者は死んでもらいたいと言う言葉です。聞いてとてもショックです。私達、障害者はこれからどうすればいいんだろう
- ・他の支援者も犯人と同じ気持ちになつたりするのでしょいか、支援者

のことを信じられなくなり、
障害者だって、一生懸命頑張っているのに、その人は、そんなふうに思っていたのです。ね。ざんねんな、気持ちだった

やはり、言葉によるコミュニケーションが難しい障がいのある人の気持ちを代弁するのは、同じ障がいのある人なのですね。もちろん、一人の意見が全体の意見であるかのように扱ってはなりません。多くの当事者が同じことを感じたとき、それは言葉として現れます。今回、そのことがハッキリと分かりました。

3 ふたたび、育成会のうごき
これまで全育連は、基本的に「障がいのある人向け」の声明文やメッセージを発表したことがありませんでした。しかし、障がいのある人からの訴えを読ませていただき、今回だけは何があっても障がいのある人自身に届くようなメッセージが必要だと強く感じ、全育連の久保会長や田中統括など幹部の方々へ障害のある人向けメッセージの必要性を提案し、ご快諾をいただきました。

そこで、タイミングは少し遅れてしまいましたが、「手をつなぐ」編集担当の方が原案を作成してくださり、翌日になって「障害のある人向け」メッセージを公表することになりました。結果的に、一般向け・障害のある人

向けのいずれも、新聞・テレビなどで繰り返し大きく取り上げられることとなりました。全育連としても、久保会長や田中統括が多くのメディアで取材に応じています。でも、本音はいえ、こんな悲しい事件ではなく、もっと楽しくて前向きな話題で注目されれば良かったのに…と思います。

4 とても気がかりなこと

正直なところ気がかりなことだらけですが、今の時点でもとも気がかりなことを挙げるとすれば、次のとおりです。

- ★ 事業所のセキュリティを強化するだけで良いのか
- ★ 精神障がいのある人へのいわれなき偏見や攻撃が起きないか
- ★ 知的・発達障がいのある人や家族、援助者として今回の事件に負けないためにはどうしたら良いか ↓ 全育連で「思い出の写真」を集めて9月号「手をつなぐ」の表紙にするプロジェクトを行います。
- ★ あれだけの事件があっても津久井やまゆり園を離れることができない人たちがいることをどう考えるか

そして最後に…
声明文やメッセージにも
込めた思いですが、
堂々と生かしましょう。
いつもどおりの
暮らしをしましょう。

いつもどおりの暮らしをしましょう。